

Title	国際シンポジウム・大塚久雄における「歴史と現代」アンケート結果
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所紀要, No.23 別冊, 2002.3 : 63-75
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4096
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

国際シンポジウム
大塚久雄における「歴史と現代」
アンケート結果

2001年12月14日
聖学院大学総合研究所

●実施日	2001年11月23日(金) 13:00～17:30
●場 所	メトロポリタンプラザ12F第一会議室
●参加者数	139
●アンケート回答数	54

アンケート集計結果のあらまし

☆参加者について

- 50代、60代が中心で、若い層は少なかった。
- 半数近くが研究者で、経済史関連学会に所属する人が多かった。

☆参加の動機は

- 研究所からの案内状によるものが過半数で最も多い。
- 次いで知人・友人の紹介が多い。

☆満足度は

- 内容については、「たいへん満足できた」と「だいたい満足できた」とで大部分を占めており満足度は高かったといえる。
- 同時通訳については、「ほぼ完全に理解できた」と「だいたい理解できた」とで大部分を占めている。

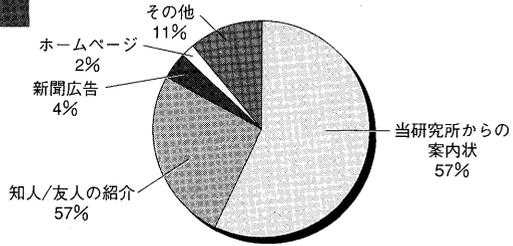
- 運営については、「たいへん満足できた」と「だいたい満足できた」とで大部分を占めている。

〈関係情報〉 参加申込手段等と出席状況

申込手段等	申込(参加予定)者数	出席者数
ホームページ	20	17
Eメール(ホームページからを除く)	15	11
ファックス	11	10
はがき	10	9
電話	2	2
その他(講師・学内等)	55	41
招待者	39	33
直接来場	—	16
計	152	139

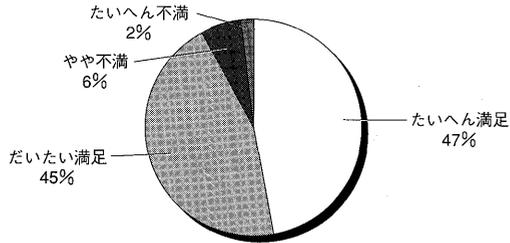
アンケート結果の概要

この会を何で知ったか

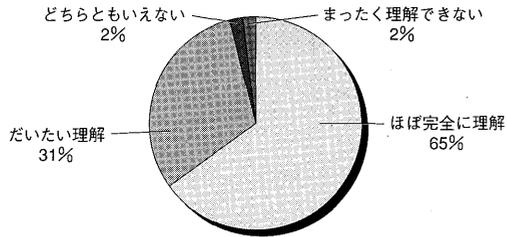


満足度関係

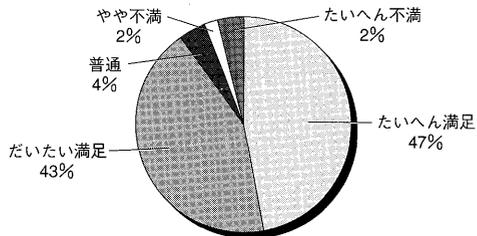
内容について



同時通訳について

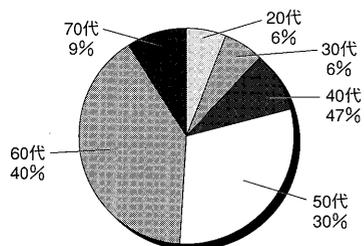


運営について

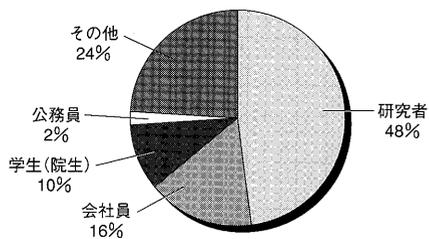


参加者のプロフィール

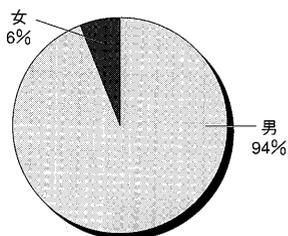
参加者の年齢



参加者の職業



参加者の性別



アンケート集計表

1 この会を何で知ったか (複数回答)	計
当研究所からの案内状	31
知人/友人の紹介	14
新聞広告	2
ホームページ	1
雑誌広告	0
その他	6
無回答	1
総 計	55

その他具体的に：

週刊読書人学校から	案内パンフレットをもらった
朝日新聞	東京大学の構内の広告
先生から (2)	成蹊大学構内の掲示
ヨーマン会	

2 内容について	計
たいへん満足できた	25
だいたい満足できた	24
ごく普通	0
やや不満だった	3
たいへん不満だった	1
無回答	1
総 計	54

3 同時通訳について	計
ほぼ完全に理解できた	31
だいたい理解できた	15
どちらともいえない	1
あまり理解できなかった	0
無回答	1
総 計	54
4 運営について	計
たいへん満足できた	25
だいたい満足できた	23
ごく普通	2
やや不満だった	1
たいへん不満だった	2
無回答	1
総 計	54
5 参加者の年齢	計
10代	0
20代	3
30代	3
40代	5
50代	16
60代	21
70代以上	5
無回答	1
総 計	54

6 参加者の職業	計
公務員	1
研究者	24
学生（院生）	5
会社員	8
その他	12
無回答	4
総 計	54

その他具体的に：

退職者（4）	大学非常勤講師
図書館員	中高教員
NPO主催	無職

7 参加者の性別	計
男	50
女	3
総 計	54

8 所属学会（複数回答）	
社会経済史学会	8
経済学史学会	6
土地制度史学会	3
経営史学会	2
政治思想史学会	2
IRRA（US労使関係学会）	1
キリスト教文化学会	1
国際政治学会	1
国際理解教育学会	1
産業考古学会	1

システム監査学会	1
社会思想史学会	1
社会政策学会	1
政治思想学会	1
日本EU学会	1
日本英文学会	1
日本海運経済学会	1
日本経営史学会	1
日本広告学会	1
日本広報学会	1
日本国際問題研究所	1
日本社会学会	1
日本宗教学会	1
日本商品情報通信学会	1
日本政治学会	1
日本ファイナンス学会	1
日本マスコミュニケーション学会	1
日本民族学会	1
日本労使関係研究会	1
比較民族史学会	1
マスコミ学会	1

自由記入

- 1 今日の日本文学会の貧困さを見ると、今日のシンポジウムは内容の面で充実している上、運営の面でも満足ゆくものであった。
- 2 講演者のテーマは非常に現在的だった。今後もこれを深めるように期待する。
- 3 今後も数年おきに同様のシンポジウムを企画していただければ幸である。
- 4 すべてが非常によく準備されていて感銘を受けた。「個人」と「共同体」の関連で、大塚理論が今後どのように解釈され、発展・継承されていくのか楽しみである。
- 5 大変興味深い内容だった。今後もこの種のセミナーの実施を期待する。
- 6 「歴史の研究」だけでなく「現代における新しい共同体」まで言及されてよかったと思う。大変参考になった。
- 7 各講演とも大変面白く勉強になったが、補足説明を多くして、原稿から読み取りにくい部分などを聞いたかった。
- 8 特にシュヴェントカー教授と柳父教授の観点に現代的なものを感じた。
- 9 大塚にしてもウェーバーにしても今日いかにアプローチするかについて、かなりクリティカルな分岐点がはっきりしてきたように思う。
- 10 「共同体」が古くて新しいテーマだと興味深く聞いた。
- 11 大塚久雄教授の没後5年を記念して、門下生たちによるこのような企画が成立したことに感銘と賞賛を覚える。大塚史学と丸山眞男の比較研究、内村鑑三との関係、そして「現在」的状況に至る今日の問題との関わりについても、時宜を得たものと思う。
- 12 聖学院大学が大塚史学の継承、展開に一層の寄与をされることを祈念する。
- 13 資本主義の倫理と自由／主体化の問題、そして市民社会、共同体、association、をいかにつくるかという問題を改めて考えることができた。また大塚と内村の

関係を勉強したいという刺激を得ることができた。

- 14 関口教授の報告に特に大きな感銘を受けた。全体にすばらしいシンポジウムだった。
- 15 各報告者の報告自体には何の不満もない。よく納得のいく内容だったと思う。
- 16 大塚久雄の提起したものの幅の広さ、深さに改めて驚かされた。シンポジストの話しも刺激的だった。またこのような機会を作ってほしい。
- 17 大塚久雄先生の高い深い学識を中心とした、ご高業の諸先生方のご高見を賜る機会を作っていただき、参加させていただき感謝。
- 18 聖学院大学のシンポジウムはいつも時宜にかなったものが取り上げられ、同じ大学に勤めるものとして感心している。今回の題目も貴重なもので大変勉強になった。
- 19 池袋というアクセスしやすい所で開催され、よかった。
- 20 大塚門下を離れ、他の専門分野にいたので、大いに刺激を与えられた。
- 21 シンポジウムを編集して、一般向け解説も付けて、一般の図書として発刊してほしい。
- 22 学生時代、基督教社研で、数回ご指導いただいたことがあり、久しぶりに「大塚史学」を思い出し、うれしく、満足している。こういうシンポジウムは大歓迎。
- 23 おおいに期待していた内容のシンポジウムの企画だった。何年後かの次回の企画を期待する。
- 24 私は内田義彦について研究しているが、両者の間の人間観、資本主義観、近代化論等の異同がわかり、よい経験となった。
- 25 フロアの質問が集中したのも、「現代が問題」であり、「新しい共同体」の形成可能性、その契機は何かということと、また現代グローバル化した経済の無倫理性、実質非合理性、SELFISHNESS、に抗するすべが「精神的決意で」あるのか？ ということ。世界は数世紀曲折の結果、ここへ来て、今日の前にある事象を見て、経済とは人間とは何だったのかを考え直したいと思う方々に同感

する。

- 26 すばらしい雰囲気だった。
- 27 総体としてよかった。今後も出たい。
- 28 大変よい企画だった。
- 29 有意義だった。
- 30 報告で利用された参考文献が提示されていたらよかった。
- 31 大塚における「現代」、1930～45年での天皇制国家体制との対峙、経済（の理論と歴史を学ぶという意味で）学者として遂行したのだ。これを「歴史における大塚」として、つまり歴史として扱えればよかった。開発独裁にどう対案を出すのか？……今ならこう言う。
- 32 Weberを用いるときに、Zusammengehörigkeit（共属感情）がどこに生じるかで見るべし。大塚がこれをどこに見ようとしたかには触れてほしかった。SekteだろうがZivilgesellschaftだろうが、それは形の話。
- 33 少し欲張った内容。パネリストは2～3人にしぼり、相互の批判・質問を突っ込んでほしかった。しかし、今回のような充実した大塚久雄論は他になく、感銘を受けた。
- 34 よくもしつこく議論が続くものよと感心した。
- 35 もし、可能であれば大塚先生に対して批判的スタンスを取る方……お弟子さんで言えば山之内靖氏のような方、も報告者に入れたらパネルディスカッションもより充実したものになったように思う。
- 36 大塚久雄における「新しい共同体」の形成が、プロテスタンティズムのエートスによるということは、クリスチャンの立場としてそれなりに理解できるとしても、キリスト教的風土のない日本においてどういう主体をどのように形成するのかよくわからない。
- 37 やや不満としたのは、今日大塚の「思想と学問」を取り上げるのであれば、それをいかに正確に理解するかにとどまらず、大塚が提起したさまざまな問題（思想のレベル、経済史の専門レベル、社会科学の理論レベル等）を現にどのよ

うに展開しているか、あるいは「批判的に」継承しているか（どのようにか具体的に）を報告しないと、大塚の生前・死後に行われた、また現に行われている批判の大合唱に答える迫力・エネルギーが湧いてこないのではないかと思う。その点丸山の場合と異なった対応の仕方がいるのではなからうか（丸山はある程度自らの問いに自ら具体的な答えを出しているから）。

- 38 資料に書かれたことを読み上げるだけの時間があまりに多すぎたのではないか。これなら、たとえば12時半までに来てもらい、30分間資料に目を通してもらって、13時から始める、というかたちにすれば節約になるのではないか。
- 39 内容的に「現代における大塚の意味」という点では、いささか不充分だったのではないか。大塚に関心を持っている人にとっては、それなりに意義深かったと思うが。
- 40 若い人の参加が多くないのが気になった。
- 41 若い人にもっと呼びかけてほしかった。
- 42 質疑応答に関して、司会者が、単に紹介するのではなく、この問題とこの質問とはこの点で関連するというふうに、問題の交通整理をすることによって、より実りある議論が可能だと思うのだが。
- 43 もっと時間があればよかった。
- 44 アカデミックな講義が中心なのは仕方ないが、現在の経済社会に対する説得力は薄い感じ。昔はそうでなかった。これは大塚理論に内在されたものか、それとも経済研究の限界によるものか。「浮世」から離れないで、もらいたい。
- 45 日本社会の根源的罪の構図、とりわけ丸山・大塚の論理の対極にあって克服しなければならない天皇制への論及がなかったのは残念。
- 46 普遍の概念を欠き、これを実践原理とできない日本社会の分析に言及してほしかった。
- 47 これに慎重ながらも学究の其本に据えた大塚史学への真の理解から遠く隔たった所に立っている今日の学界主義の墮落はどこから来るのか？（但し今日の講師の多くは例外）触れて欲しいところであった。
- 48 現代との関連性が理解できなかった。世界同時破局については特に不足感。な

お、関口先生の意見にはもっともと思う。

- 49 ディスカッションの時間が短い。
- 50 パネラー相互のコメント・質疑が長すぎた。質問を集めたのだから、それを中心にすべき。
- 51 パネリストを身内のみで固めた（日本人パネリストはすべて先生の弟子）今回のようなシンポジウムこそ、「近代市民社会」の理念にもとる仲間行事であり、当然意味ある議論に全く欠けていたと思わざるを得ない。今後は立場の異なる議論を恐れない、生産的なシンポジウムを設計されるよう期待する。